日本史新発見

～あの出来事の最新事情～

河合 敦氏
Atsushi Kawai

歴史作家・歴史研究家。多摩大学客員教授。早稲田大学非常勤講師。『世界一受けたい授業』（日本テレビ系）などテレビ出演多数。歴史の意外なエピソードの紹介や分かりやすい解説に定評がある。著書に『世界一受けたい日本史の授業』『日本史は逆から学べ』『逆転した日本史』など。

第3回

赤穂浪士は手厚くもてなされた!?

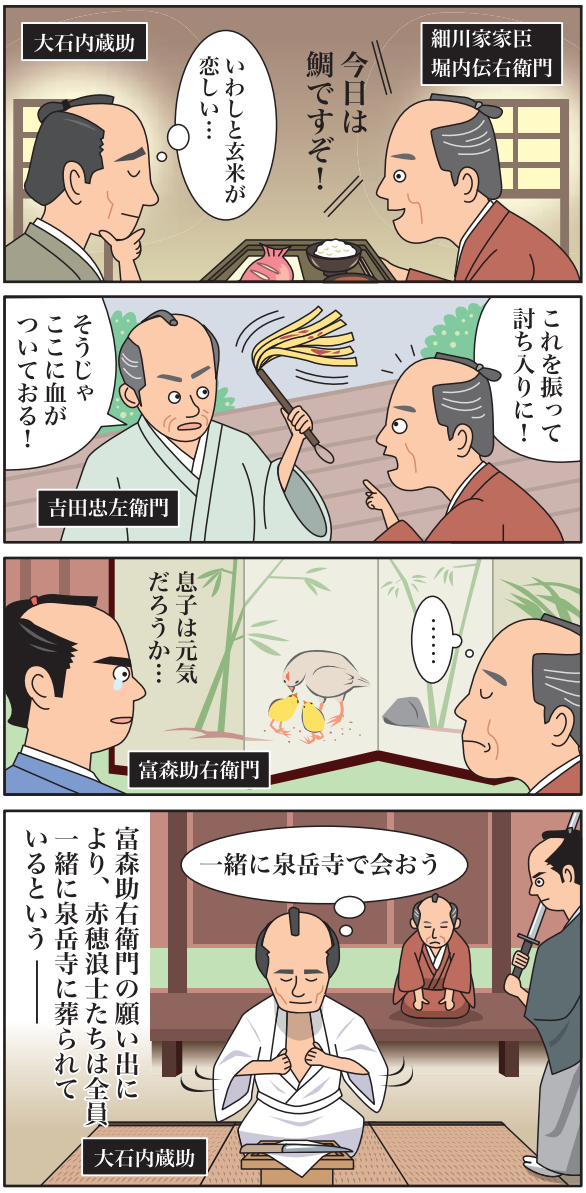
赤穂浪士は討ち入りを終え泉岳寺に凱旋した後、熊本藩など四大名家に分けて50日近く預けられました。集団で吉良邸を襲い当主の上野介を殺したので、通常でしたら直ちに斬首されるのですが、幕府内で助命論が台頭してすぐに判断を下せなかったためです。熊本藩で浪士の世話役を務めた堀内伝右衛門は、その間の詳しい様子を書き残しています。浪士の食事は二汁五菜と豪勢で、昼には菓子、晩には夜食が供されたとのこと。また、藩主の細川綱利は討ち入りを褒め、幕府に赦免を願い全員を家臣にしたいと公言し、浪士の居室に立派な湯殿（浴室）や雪隠（トイレ）も造っています。

浪士たちは世話役の伝右衛門に大いに信頼を寄せ、赤裸々に心情を語っています。大石内蔵助は豪華な食事で胃がもたれ、「いわしと玄米が恋しい。少し食べ物を軽くしてほしい」と依頼したそうです。

副将格の吉田忠左衛門は「私は兵法が好きで、討ち入りでは大石殿に内緒で采配を隠し持ち、実戦で振るった。血が付いているので見てほしい」と自慢しています。また「切腹後、白布で私の死骸を包んでほしい。年寄りの骸は見苦しいので」と頼んだともいいます。

伝右衛門と最も打ち解けたのは34歳の富森助右衛門です。ある日、鶏が雛を育てる絵を見た助右衛門は「お恥ずかしいことに、2歳の倅長太郎を思い出した」と語っています。切ない胸の内を察した伝右衛門は、長太郎の元へ出向いて人形を贈り、「さてもさても助右衛門によく似たる生付にて候」と覚書に記しています。浪士たちに切腹の沙汰が出たとき、伝右衛門は非番でしたが、すぐに屋敷に駆けつけ、彼らと最期の盃を交わし、死に装束に着替えるのを手伝っています。特に仲のよかった富森助右衛門の「袴を腰に当てた」とも書き留められています。

切腹はわずか1時間で終了し、遺骸はその日に泉岳寺へ運ばれました。他家からも亡骸が集まり、再び浪士らは一堂に会したのです。生前、助右衛門は「切腹となったら宗旨にかかわりなく1カ所にして葬ってほしい」と依頼していました。その願いを伝右衛門は大目付の長瀬助之進に伝えており、その甲斐あってか、浪士は同じ空間で永久の眠りにつくことができたのでした。



ちょこっと旅ガイド

【泉岳寺】 東京都港区高輪　京浜急行・都営地下鉄　泉岳寺駅から徒歩2分

泉岳寺には浅野長矩をはじめ赤穂浪士「四十七士」の供養墓があることで有名です。吉良上野介の首を洗ったといわれる首洗い井戸など赤穂浪士にまつわる史跡も残されています。毎年12月14日と4月上旬には義士祭が催され、赤穂浪士に扮した人たちによるパレードが行われます。